

研究授業「ボランティア」の実施報告

佐藤 麻衣*

Report on Implementation of an Open Lecture on “Volunteer”

Mai Sato

要約

本稿は、2022 年 7 月 26 日に実施した研究授業の報告である。2 年前期に開講される「ボランティア」は、全学共通科目の位置づけにある。本報告は、当該科目の研究授業概要と検討会における意見、それを受けての考察について報告するものである。

キーワード：研究授業、ボランティア、ボランティアの概要

(Abstract)

This paper is a report on an open lecture given on July 26, 2022.

In the Department of Secretarial Studies, an Introduction to volunteerism lesson was held as an open lecture in the second year, third semester.

The paper is a report on the outline of the open lecture, observer opinions and considerations.

Key words : open lecture, volunteer, an introduction to volunteer

はじめに

本稿は、高松短期大学秘書科において実施した研究授業「ボランティア」の報告である。まず、研究授業の実施概略と本科目の概要について述べ、次に本授業の内容、最後に検討会における意見とそれに基づく考察を記述する。

以上により、本科目の改善ならびに今後の授業改善への研究資料とすることを目的とする。

1. 研究授業の実施概略

研究授業および検討会は、以下のとおり実施された。

【研究授業】

日時：2022年7月26日 火曜日 5校時

場所：本館 202 講義室

科目名：ボランティア (第3回／全30回)

受講対象：高松短期大学 秘書科 2年生 25名

参加教員：秘書科教員 7名

【検討会】

日時：2022年7月28日 木曜日 2校時

場所：1号館 1402 演習室

参加教員：秘書科教員 7名 (担当教員を含む)

2. 本科目の概要

本科目の位置づけや到達目標、授業計画は次のとおりである。

(1) 本科目の位置づけ

本科目は、全学共通科目のなかの教養科目として位置づけられている。そのため、履修対象者は、短期大学生である。しかしながら、例年、履修者のほとんどは秘書科学生である。今年度の履修者も秘書科学生が100%を占めている。

本科目の担当教員は、筆者を含め3名である。研究授業にあたる第3回目は、筆者が担当する回であった。

(2) 到達目標

本科目の到達目標は、次の4つである。

- ①自ら考え行動できる。
- ②問題を発見し、他者と協力して解決できる。
- ③関わる人々と良好なコミュニケーションが取れる。
- ④高い倫理観と責任感、忍耐力を備え、礼節をわきまえた行動ができる。

ボランティアは自主的・自発的におこなうものであり、そのためには自ら問題意識を持ち、それを実行する行動力が求められる。また、ボランティア活動では、多種多様な人々と交流し協働する場面もある。そのため、ボランティア活動への参画は、他者との良好なコミュニケーションを身につける機会となろう。

次に、上述の到達目標を達成するための授業計画は、以下のとおりである。なお、本科目は、全30回の演習科目である。

(3) 授業計画

本科目の授業計画について、各回の授業題目と内容を表1に示す。

表 1 授業計画

回数	授業題目	授業内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要の説明
第 2 回	ボランティア活動計画 ボランティア活動計画書作成	ボランティア実施先の説明 日程調整と活動計画の作成
第 3 回	ボランティアの概要	ボランティアとはなにか
第 4 回～ 第 28 回	ボランティア活動	ボランティアの実施
第 29 回	ボランティア活動報告書作成	ボランティア日誌への記述 活動報告書の作成
第 30 回	ボランティア活動報告	ボランティア活動の報告（発表）

本科目は表 1 のとおり、全 30 回の授業計画に基づき授業を展開する。第 1 回から第 3 回までは講義形式で授業概要やボランティア活動の計画、ボランティアの概要について学習する。第 4 回から第 28 回は、実践としてのボランティア活動をおこなう。最後の 2 回（第 29 回、第 30 回）は、ボランティア活動のまとめとして、報告書の作成および報告（発表）を実施する。

3. 研究授業の内容

研究授業は、以下のとおり実施した。なお、本授業は本科目の第 3 回目の授業である。

(1) 授業題目

ボランティアの概要

(2) 本授業の学習目標

- ①ボランティアとはなにかを理解し、説明することができる。
- ②ボランティアの活動領域を知り、興味のある領域への関心を高める。
- ③基本的マナーを理解し、ボランティア実践の準備をする。

(3) 本授業の学習指導案

本授業は表 2 の学習指導案に基づき展開した。

表 2 学習指導案

	学習内容・活動	時間	指導・支援活動
導入	起立、礼 出欠確認（点呼）	2 分 (16 : 22)	名簿で出欠確認
	本日の目標	3 分 (16 : 25)	本時の目標の提示。
展開	ボランティアのイメージ	15 分 (16 : 40)	レポートの配布。 福祉、ノーマライゼーションといった概念を提示し、ボランティアという用語からイメージすることを記述する。 レポート Q1～3「イメージすること」
	ボランティアの基本的性格	40 分 (17 : 20)	4つの観点から、ボランティアの特徴を理解する。その上で、ボランティアの欠点（注意点）、領域、活動内容と対象者を学ぶ。 レポート Q1～3「理解したこと」※時間によっては課題とする
	実践としてのボランティア	20 分 (17 : 40)	ボランティアの実際と実践するうえでの基本的マナーを理解する。
整理	本日のまとめ 起立、礼	10 分 (17 : 50)	本日のまとめ。 レポートは完成させて、期日までに提出。 消毒当番（3名）

(4) 授業内容

本科目は全学共通科目のなかの選択科目であることから、本科目を履修する学生はボランティアに少なからず興味を持っていることが想定される。しかしながら、履修者との会話からは、ボランティア経験のない学生もおり、興味はあるが実践するきっかけがつかめない様子であった。また、経験があったとしても、ボランティアとはなにかを学ぶことなく活動してきた様子であった。そこで、本科目においてボランティアの概要を学習することは意義があると考えた。学習の時期については、ボランティア活動を実施する直前が良いと考え、オリエンテーションとボランティア計画を立てたあとに設定した。

ボランティアの概要について学習する時間は 1 コマであるため、学習の範囲を広げすぎないこと、学生が馴染みやすい内容とすることを心がけた。また、授業が終わった後もボランティア活動に興味を持ち、自ら参画する動機づけとなる内容とした。

授業展開は次のとおりである。まず導入として、本時の目標を提示し、授業を受ける前のボランティアに対するイメージをレポートに記述させた。レポートの質問は、①ボランティアの用語の意味、②ボランティア活動の領域、③ボランティアに携わる人に関する内容の三つである。それぞれに、現時点でイメージすることを記述させた。このレポートは、各質問に対し「イメージすること」と「理解したこと」を書く二つの枠を設けている（資料 1 参照）。授業の冒頭では「イメージすること」の枠に記述し、授業後に「理解したこと」を記述させることとした。

次に、①ボランティアとはなにか、②ボランティアの領域、③ボランティアの活動内容と対象者、④ボランティアの実際、⑤ボランティアの実践の流れで展開した。①ボランティアとはなにかでは、ボランティアの語源から用語の意味を説明した。また、ボランティアの基本的性格として、自発性、公共性、無償性、自己成長性の四つの観点から説明した。②ボランティアの領域では、地域、高齢者、障害者、児童、国際貢献の五つの分野を紹介し、それぞれの活動例を提示した。③ボランティアの活動内容と対象者では、活動内容例と対象者例を示したが、自分の得意な分野やできること、したいことを自分ができるときに、自分の関心のあるところで活動することを強調した。つまり、ボランティア活動は、いつでも、どこでも、だれに対してもおこなうことができる。これは、学生に理解してほしい本授業の目的の一つである。④ボランティアの実際では、ボランティアを必要とする側のイメージが強い、高齢者や障害者がボランティアをする側となる事例を紹介し、学生が持つボランティアのイメージを広げることをねらいとした。⑤ボランティアの実践では、ボランティア活動をする上での基本的なマナーを説明し、活動上の注意事項を示した。

最後に、授業のまとめをして、レポートの「理解したこと」の枠に記述させた。レポートの裏面には、今後してみたいボランティア活動、ボランティア活動でなにを学びどう成長したいかの二つの質問を設定した（資料 2 参照）。これは授業時間外の課題として、後日提出させることとした。

(5) 本授業の評価方法

本授業の評価方法は、受講態度および授業中に作成し、後日提出の課題としたレポートをもとに評価する。

4. 学生の反応

本授業における学生の反応は、レポートから見て取ることができる。

まず、ボランティアをする人のイメージについて、学生の記述を列記する。

- ・ 高校生が部活や授業でする
- ・ 学生や 40 代以上の方が多いイメージ
- ・ 学生、主婦
- ・ 若い世代
- ・ 誰かの役に立ちたい人

- ・ 人助けが好きな人
- ・ 地域の役に立ちたいと思い積極的に行動する人
- ・ お年寄りの方
- ・ 小学生から 60 代まで

このように、ボランティアをする人のイメージは、高校生や大学生といった履修者と同世代から高齢者まで、幅広い年齢層の人々が活動しているという認識が多かった。一方、ボランティア活動をする動機については、他者や地域のために役に立ちたいと思っている人が活動をしているというイメージを持っていることがわかった。なお、いずれのレポートも「理解したこと」の欄には、授業で扱った内容を正確に理解し、自身のイメージにはなかったことを記述できていた。例えば、若い世代をイメージしていた学生は、高齢者のボランティア活動について記述していた。

次に、「今後どのようなボランティア活動をしてみたいか」との問いへの回答を列記する。

- ・ 私は今まで地域の掃除や介護施設の夏祭りボランティアなどしかしたことがありませんでした。今回の授業を受けて、配食・会食サービスや手話・点訳・朗読等のコミュニケーション支援、スポーツ活動など様々なボランティア活動があることがわかりました。私は人と話すことが好きなのでコミュニケーション支援のボランティアなど自分ができそうなボランティアに積極的に参加していきたいと思います。
- ・ 私は子供が好きなので小さい子と関わるボランティアや高校からのアルバイト経験を活かしたコミュニケーション関係のボランティアに参加してみたいです。
- ・ 自分ができること、自分が関心を持っていて、やりたいと思うものにしぼると、かなり少なくなるが、ボランティアにかかわらず日常にあふれる細々とした人助けは続けたい。
- ・ 子どもと関わるのが好きなので、児童分野のボランティアに積極的に参加してみたいと思った。
- ・ 人の話を聴くことが得意なので、話し相手になるボランティアをしてみたい。聴くことで、誰かの気持ちを楽にしたい。
- ・ 自分も相手も楽しくなるような活動をしたかったです。相手のためだけに動くということは簡単にできることではないと思うので、自分自身のためになるようなボランティア活動に参加できると良いと思います。
- ・ 高校の時、部活動でボランティアに参加したくらいしかしたことがないので、自分の意思で参加し、地域に貢献できるようにしたいと思いました。

このように、自分の好きなことを活かした活動や興味のある活動に参加したい、との記述が多かった。また、自らの意思で参加したいという意欲を示してくれた記述もあり、ボランティア活動への意識の高まりを読みとることができた。このことから、授業後も、学生自らボランティア活動に参画する動機づけができたといえるのではないだろうか。

レポートの記述から、本授業の学びを次のとおりまとめることができる。

ボランティアをする人のイメージは、学生によって回答が異なり、学生と同世代の人々が

していると書いた学生もいれば、退職後の高齢者が活動していると回答した学生もいる。全体的に見ると、幅広い年齢層の人々が活動しているという認識が多かったが、若年層や高齢層などどちらかに偏ったイメージを持っていた学生は、本授業をとおして認識を新たにすることができたのではないだろうか。また、今後してみたいボランティア活動について、自分の得意や好きなことを活かした活動に参加したいとの意見が多く、自らの意思で参加することの重要性に気づいた学生もいた。これは本授業が、授業のなかの活動で終わるのではなく、授業終了後もボランティア活動に参加する契機となったといえよう。また、本授業の目的の一つであった、ボランティア活動はいつでも、どこでも、だれに対してもおこなうことができるということを学生が理解したと捉えることができる。

5. 参観者による評価

研究授業後の検討会および参観者から提出された「研究授業参観記録用紙」による評価・意見は以下のとおりである。

(1) 授業を積極的に評価できる点

①教育内容

- ・ 時流に乗った良い題材でした。
- ・ 楽しく拝聴できた。
- ・ ボランティア概論として、その全体像をよく理解できるものであった。
- ・ ボランティア前の意識づけの内容。
- ・ ほとんど知り得ることのないボランティアの基礎的知識から講義されたことにより、ボランティアの意味や意義等が深く理解できたものとする。
- ・ 本時の3つの学習目標を意識した授業であった。
- ・ ボランティアをする人に必要な基礎知識が学べる授業であった。
- ・ 実際にボランティアを行う前に、心構えを持たせることができる授業であった。
- ・ これまで全学共通科目の本授業「ボランティア」は、“活動のみ”というイメージがあったが、ボランティアの意味、考え方、基本的性格、取り組む姿勢などに触れており、演習への意識を高める内容であった。

②授業方法

- ・ 十分に工夫されていた。
- ・ 時間の取り方も秀逸でした。
- ・ 視線、ボイスも工夫されていました。
- ・ 声のトーンに落ち着きがあり、わかりやすい。
- ・ 説明のあとにプリント書き込み式で授業を実施。
- ・ 滑舌良く講義されたことにより、聴講しやすかったものとする。
- ・ 最初と最後のあいさつを、起立させて行っていた。授業と休憩時間とのけじめがきちんとついていた。

- 講義を飽きさせない工夫があった。講義を聞く、講義ノートに記入させる、レポートの各項目を考えさせる、というように変化をつけていた。それぞれの項目について具体例を用いて説明されていた。
- 配布物に工夫があった。講義ノートとレポートが用意されており、知識の分野は講義ノートを用いて進め、考えさせる分野はレポートを用いていた。私は、この両方を1つのプリントにまとめようとしてしまうが、分けている方が頭の整理がしやすいと感じた。
- 講義ノートは、ポイントとなる言葉を各自が記入する形式になっており、口頭での説明とともにスクリーン上に赤字で解答を示すことで、学生の印象により強く残る工夫がされていた。学生が理解しやすい方法だと感じた。
- レポートは、ボランティアの知識がない状態で、最初に各自が考えて記入する。その後、講義を聞いて知識がある程度できたときに、もう一度考えて記入する。この過程を通して、学生自身が理解したことを認識し、自分の成長を感じることができるようになっていた。考える時間も十分に取っており、静かな環境が保たれている中で、学生が真剣に考えることができるようになっていた。
- ボランティアに参加するにあたり、“なんとなく”ではなく、どのような意識で打ち込むべきか、学生自身が自分の気持ちに問いかけ、意識を高めて実際の演習へと移行できる授業であった。また、“指導する”のではなく、学生自身の“気づき”を大切にされた授業であった。佐藤先生が授業の最後に「感じ取ってもらえたら」とおっしゃっていたのが、今回の授業の核心部分だと感じた。
- 随所に具体的「例え」を出しイメージしやすくなる工夫がされており、説明が非常に分かりやすかった。
- 本学学生は、ノートを取ることが苦手な傾向にあり、その対応として「講義ノート」を“穴埋め”にされていて、学生が授業に取り組みやすいよう工夫がされていた。一方で、レポートでは、自分の考えや授業のまとめを自分の言葉で表現する課題もあり、学生の取り組みと教員側の意図のバランスが取れていると感じた。
- 講義の展開に流れがあり、説明→気づき→理解→疑問→説明...と自然な思考の流れで、90分があつという間であった。

③その他

- 講義してからのレポート作成。
- 教員の説明の言葉が分かりやすく、楽しそうな雰囲気です話をされていた。言葉の端々から、説明されている内容についてご自身が楽しく感じていることが伝わってきた。教員が授業内容を楽しんでいると、学生も楽しいと思えるのではないかと感じた。

(2) 授業の改善にかかわる点

①教育内容

- 今回の授業は、第3回目の授業であるが、内容は順番として良いのか。

②授業方法

- 学生に発言を求める部分があってもよかったのではないかとと思われる。広い講義室という関係もあったかも知れないが。
- レポートに記述させた意見などをもとにした「対話」のある授業が行えるものと考え

③その他

- 眠気覚ましのアクションを検討。
- 今回の授業を通し、私自身が感じたボランティアとは、ゴールがない分、それぞれ自分の特技や想いを生かして、できることをできる範囲です、という、従来の観念が覆されたように感じています。それは学生も同じかと思います。今回の講義で、学生自身が自己を見つめ直し、ボランティアに生かせる自己の特技を見つけ、それを元に活動を探し、取り組む。様々な制約や学生の能力を鑑みると非常に難しいことかもしれませんが、「自分にも何かできるかも」と感じた学生の気持ちを少しでも拾い上げられる活動となることを期待しています。

(3) 授業全体の感想

- 準備も十分にできていて、充実していた。
- 落ち着いた環境で、内容がしっかり浸透する授業であった。
- 有意義な講義であったと考える。
- 分かりやすい授業を見せていただき、ありがとうございました。
- 講義が中心の授業で、学生の意識を保つことは大変ですが、様々な工夫がされていて、学生は最後まで真面目に話を聞き、講義ノートやレポートに記入していました。
- 内容も勉強になりました。ありがとうございました。
- 90 分間、私自身受講生となり、学生と同じ視点でボランティアについて学ばせていただきました。まず感じたことは、先生の話し方であったり、学生への問いかけであったり、考え方であったり、「ボランティア」という人間性が大いに関与するであろう本授業に先生が適任であると強く感じました。
- 私自身、自分の持つスキルで何かボランティアとして役立つことはないだろうか、と考える良い機会となりました。素晴らしい授業をありがとうございました。

以上が検討会および「研究授業参観記録用紙」から得た評価・意見である。

授業を積極的に評価できる点として、授業の展開や資料、題材が適切であり、学生が授業に取り組みやすい工夫がされていた。また、説明の間合いや発声、説明の言葉がわかりやすく、教員が楽しそうに話をすることで学生も楽しいと思えるのではないかな等の意見があった。教員が楽しそうとの意見について、筆者自身、本授業の内容を学生に伝えられることに喜びを感じながら授業をおこなっていた。その喜びや楽しさが、履修者である学生にも伝わっているならば教育者として幸せなことである。

一方、授業の改善にかかわる点として、今回の単元を扱う時期は適切であるのか、学生の

発言を促す工夫、授業におけるボランティア先の選定についての意見があった。

以上の評価・意見を受けて、授業の改善にかかわる点について次に考察を述べる。

6. 考察

授業の改善にかかわる点の意見から、①今回の単元を扱う時期、②ボランティア活動実施先の選定、③学生の発言を促す工夫の3点について以下に考察する。

まず、1点目の「今回の単元を扱う時期」について、本授業は第3回となる。前述のとおり、第1回はオリエンテーション、第2回はボランティアの活動計画を立てる内容であった。ボランティアの概要を扱う本授業は、ボランティア活動を実施する直前が良いと考えて第3回目の時期を設定したが、オリエンテーションの後のほうが良かったのかもしれないと考えた。これは、2点目の意見にも関わることであるが、第2回の授業でボランティアの活動計画を立てるにあたり、ある程度ボランティア活動先を学生に提示している。つまり、第2回の授業を終えた時点で、学生は自身が活動するボランティア先をある程度決めている状態である。したがって、第3回の授業で、ボランティア活動はいつでも、どこでも、だれに対してもおこなうことができるということを強調しておきながら、すでに授業で実施するボランティア先が決まっているという矛盾が起きることとなる。次年度からは、オリエンテーション後の第2回目にボランティア概要を扱うことを検討する必要がある。

次に、2点目の「ボランティア活動実施先の選定」は、上述の授業実施時期による矛盾を解消したとしても新たに検討すべき課題がある。それは、学生自身がボランティア先を決めるための支援をすることである。本科目は現状、ボランティア先を学生自身で探すようにオリエンテーションでも周知しているが、実際探してくる学生はわずかである。多くの学生は見つけることができず、大学で用意したボランティア先での実施となる。オリエンテーション後にボランティア概要の授業を実施した場合、いただいた意見にあるとおり「学生自身が自己を見つめ直し、ボランティアに生かせる自己の特技を見つけ、それを元に活動を探し、取り組む」ことを支援することが理想的な授業展開となろう。そのしくみづくりを検討する必要がある。

最後に、3点目の「学生の発言を促す工夫」について述べる。本授業では、学生との「対話」を意識した授業ができていなかった。レポートを書いているときなど、学生に問いかけることで他の学生への刺激にもなり、学びが深まる。また、「眠気覚ましのアクション」にもつながるであろう。今後は、積極的に学生に発言を求める授業をしていきたい。

以上が本授業における授業改善点への考察である。

おわりに

ボランティアの概要を扱う本授業は、「ボランティア」科目を担当することを聞いたときから温めてきた内容である。筆者は、ボランティア活動は受け身であるものではないと考えている。部活動や授業の一環だからではなく、なぜボランティアをするのかが大事である。各自ができることを考え、自発的に活動する。そのためには、ボランティアに関する基礎知

識が必要となる。基礎知識がなくても、ボランティア活動をすることで得られる学びは多くある。しかしながら、ボランティアとはなにかという知識をもとに活動することで、その学びは一層深まるであろう。学生のレポートから、自分の得意や好きなことを活かしたボランティア活動への意欲を感じ取り、ボランティアへの理解が深まったのではないだろうか。また、検討会および「研究授業参観記録用紙」からいただいた意見には、教員が楽しそうに授業をしていたことや、「指導する」のではなく、学生自身の“気づき”を大切にされた授業」といったコメントがあり、筆者の授業への思いが履修者に伝わっているように感じ、今後の励みとなった。

授業の改善点については、単元を扱う時期やボランティア先の選定、学生の発言を促す工夫に関する意見をいただき、それぞれに検討を加えていきたいと考えている。授業展開への新たな気づきを得ることができた。

今回の研究授業および検討会で得たご意見・ご指摘とその考察をもとに、今後の本科目における授業改善に取り組んでいきたい。

最後になりましたが、研究授業および検討会にご参加賜り、貴重なご意見・ご指摘をくださいました先生方に心より感謝申し上げます。

【授業で使用した参考文献】

猪瀬浩平（2020）『ボランティアってなんだっけ？』、岩波書店

岡本栄一監修（2005）『ボランティアのすすめ—基礎から実践まで—』、ミネルヴァ書房

早瀬昇ほか著（2004）『知っていますか？ボランティア・NPOと人権一問一答』、解放出版社

田中壮一郎（2016）『入門子供の活動支援と青少年教育ボランティア』、学文社

巡静一ほか編著（1997）『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』、中央法規出版

【資料 1】レポート（表面）

2022年度 ボランティア
第3回レポート

学籍番号 _____ 氏名 _____

Q1. ボランティアって、どんな意味？

イメージすること	理解したこと

Q2. ボランティアにはどんな活動があるの？

イメージすること	理解したこと

Q3. ボランティアって、どんな人がしているの？

例) 年齢、モチベーション

イメージすること	理解したこと

【資料 2】レポート（裏面）

2022年度 ボランティア
第3回レポート

学籍番号 _____ 氏名 _____

Q4. 今後、どんなボランティア活動をしてみたいと思いましたか？

Q5. ボランティアを実践するにあたり、どんなことを学び、どのように成長したいと思いますか？

提出締切：8月2日（火）17時

提出場所：佐藤研究室